厚田区 安瀬・濃昼地区防災マップ
（令和3年版）

凡　例

津波浸水想定区域
- 20.0m 以上
- 10.0 ～ 20.0m 未満
- 5.0 ～ 10.0m 未満
- 3.0 ～ 5.0m 未満
- 1.0 ～ 3.0m 未満
- 0.5 ～ 1.0m 未満
- 0.3 ～ 0.5m 未満
- 0.3m 未満

洪水浸水想定区域
- 10.0 ～ 20.0m 未満
- 5.0 ～ 10.0m 未満
- 3.0 ～ 5.0m 未満
- 0.5 ～ 3.0m 未満
- 0.5m 未満

中小河川　洪水浸水想定区域（想定最大規模）を示す

土砂災害特別警戒区域・警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害警戒区域（地すべり）

- 地域で決めた一時避難場所
- 警察
- 病院
- 消防署・消防団
- 公民館・研修センター
- 福祉・児童館
- 幼稚園・保育園
- 文化・教育施設
- 公園
- 一般国道
- 主要道路

備蓄品 備

≪非常食≫
- 雑炊
- クラッカー
- 飲料水
- 粉ミルク
- アレルギー対応粉ミルク

≪生活用品≫
- 毛布
- ラジオライト
- 発電機
- 投光機
- ストーブ
- 救急箱
- 簡易トイレ
- 子供用おむつ
- 大人用おむつ
- 生理用品
- ガスコンロ
- ビニールシート
- ハンドマイク

※避難所により、備蓄状況は異なります。

持ち出し品の確認

個人でなければ用意できないものなど、絶対に忘れてはいけない持ち出し品をメモしておきましょう。

☐ ☐
☐ ☐
☐ ☐
☐ ☐
☐ ☐
☐ ☐
☐ ☐
☐ ☐

福祉避難所		住　所	電話番号
②	厚田学園（教室）	厚田区厚田 171-1	77-5356

避難所はどこ？
Where is the evacuation site?
避难所在哪里？
Где убежище?

① 両手を握って走る様子。

② 全指を曲げた右手を前に置く。

③ 右人差指を立てて左右に振る。

避難方向
- 赤 → 地震・津波
- 青 → 洪水・土砂災害

過去の浸水実績

安瀬

濃昼

20 厚田学園へ 備 2（海抜 20.0m）

20 厚田学園グラウンドへ（海抜 20.0m）

10 浜益小学校へ 備（海抜 2.0m）

10 浜益小学校グラウンドへ（海抜 2.0m）

落石等で国道が寸断された場合は浜益小学校へ避難

土砂災害が拡大しそうな場合は国道 231 号駐車帯に避難

落ち着いたら厚田学園へ避難

国道 231 号駐車帯 海抜 24.2m

国道 231 号駐車帯 海抜 13.8m

濃昼会館駐車場 海抜 6.0m

ヤツスケ川右の沢、ヤツスケ川、厚田安瀬、安瀬、安瀬沢、安瀬(2)、幌内川、濃昼川、中の沢川、浜益濃昼1、浜益濃昼2、浜益濃昼3、濃昼トンネル、新赤岩トンネル、赤石沢川、小川

N　0　250　500　1,000 m

※土砂災害の範囲は、北海道が指定した土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所を加工して作図したものです。
※津波の範囲は、平成 29 年 2 月 9 日に北海道が設定した日本海沿岸の津波浸水想定を加工して作図したものです。
※ ▨ のエリアは、北海道公表の津波浸水想定区域を踏まえて、隣接エリアと概ね同様の浸水が想定される区域として、石狩市が独自に設定したエリアを示します。
※濃昼川の洪水の範囲は、平成 30 年 12 月に北海道から提供のあった、濃昼川水系濃昼川洪水氾濫危険区域を加工して作図したもので、河川断面など詳細な調査をしていない簡便な手法で、浸水範囲を概略で示しています。

谷折りで「防災の心得」へ

指定緊急避難場所		災害の種類 地震	津波	高潮	洪水	まちの浸水	土砂災害	大火事	指定避難所	住　所	電話番号
※	地区外の指定緊急避難場所										
10	浜益小学校	△	×	○	▲	○	○	×	○	浜益区柏木 1-17	79-3124
	浜益小学校グラウンド	○	×	○	×	○	○	×			
20	厚田学園	△	○	○	○	○	○	×	○	厚田区厚田 171-1	77-5356
	厚田学園グラウンド	○	○	○	○	○	○	○			

家族の連絡先

家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校の電話番号
	明・大 昭・平 年 月 日	A・B O・AB	
	明・大 昭・平 年 月 日	A・B O・AB	
	明・大 昭・平 年 月 日	A・B O・AB	
	明・大 昭・平 年 月 日	A・B O・AB	
	明・大 昭・平 年 月 日	A・B O・AB	

家族のルール

家族の避難先等について記入しよう

-
-
-
-
-

緊急連絡先

市　役　所	厚田支所地域振興課管理担当	電話番号：78-2011
かかりつけの病院	病院名：	電話番号：
近所の総合病院	病院名：	電話番号：
		（自由記入欄）
		（自由記入欄）

※まちの浸水とは、降雨量が小河川や下水道等の流れる能力を超えた場合に、建物や道路が浸水することを指します。※表中の記号は、「○：現象に対応できるもの　×：現象に対応できないもの　△：施設の安全が確認された後に使用する施設であり、耐震条件を満たしたもの　▲：２階以上の避難について現象に対応できるもの」を表しています。

この防災マップは、皆さまの声をまとめたものです。

厚田区 安瀬・濃昼地区の『防災の心得』

※ この「防災の心得」は、皆さまの声をまとめたものです。

平 常 時

① 持ち出し品と備蓄の用意！

個人で必要なものを考え、持ち出し品の準備や備蓄をしよう。冬季の寒さ対策も忘れないようにしよう。

② 自身で確認！

家族の間で、連絡方法、避難経路、集合場所、標高、避難時に危険となる箇所の確認をしておこう。

③ みんなで確認！

隣近所の高齢者などに避難場所や経路を繰り返し伝えよう。

④ 要配慮者の把握！

普段の生活の中から、自治会や隣近所などが中心となって要配慮者の把握を行おう。

⑤ 自動車避難のルールをつくろう！

避難所まで距離がある地区は、自動車で避難するための地区のルールをつくろう。

⑥ 防災訓練で備える！

想定にとらわれることなく、日頃から防災訓練を実施して、災害時に備えよう。

災 害 時

① まずは情報収集！

テレビやラジオ、サイレンなどで災害情報を取得し、素早く対応しよう。

② 自分と家族の安全確保！

まずは自分や家族の身を守ることが第一と考えよう。

③ 周囲の人に知らせる！

隣近所への声掛けを行い、災害を知らせ合って避難しよう。

④ 助け合って避難！

一人で逃げることが困難な高齢者や乳幼児の避難を助けよう。

⑤ 天候に応じた避難を！

吹雪などの天候に考慮した準備をして避難をしよう。

⑥ 指定避難所の運営は避難した人でする！

指定避難所の運営は、避難した人でできるようにしておこう。

＜厚田区 安瀬・濃昼地区＞ 地区防災マップの使い方

1. 地区内の危険をチェックしよう。（津波、洪水、土砂災害など）
2. 自分の家をチェックしよう。
3. いつも通っている場所をチェックしよう。（学校・職場・病院など）
4. 近くの避難所をチェックしよう。
5. 家やいつも通っている場所からの避難ルートを書いてみよう。

※付録の材料を使って家族でマップを完成させよう！
※地区防災ガイドを詳しく見てみよう！

この地区防災マップは公益財団法人北海道市町村振興協会（サマージャンボ宝くじの収益金）の助成を受けて作成しています。